

大岩堤を守る水神の鳥居新設

「新しい時代に合った祭りを」

ビオトープ大岩の役員で完成



新設された鳥居

富士宮市大岩の大岩堤を守るビオトープ大岩(佐野代表)の役員はこのほど、同堤を守る水神の鳥居を新設。今年は新型コロナウイルスの影響で祭りは中止となったものの、新しい真っ白な鳥居が建てられ、地域住民も「これからもこの地域を守っていたら、新しい時代に合った祭りを来年は行いたい」と手を合わせている。

大岩堤は水田振興のため発起した大岩の農民たちによって造られた貯水池で、江戸中期以降、およそ240年前に大事業の末に造られた。ビオトープ大岩は、この堤の歴史や自然、水の大切さを未来へと引き継いでいこうと発足し、地域住民が堤に一度は来る機会にしようとして毎年5月に同堤で祭りを開催している。

○：県民の余暇充ラフを充足させた。実を進める役を担うメンバーがさまざまに要請をいじり、企画し、地域住民らと活らした。富土地区の余暇プランナー5人が「富士地や意義などについて区余暇プランナーく理解を深めていく。



た貯水池で、江戸中期以降、およそ240年前に大事業の末に造られた。ビオトープ大岩は、この堤の歴史や自然、水の大切さを未来へと引き継いでいこうと発足し、地域住民が堤に一度は来る機会にしようとして毎年5月に同堤で祭りを開催している。

祠(ほくら)は同グループが発足し、堤までの道を整備している中で発見したもの。佐野代表は「おそらく堤を造った当時においていただいた神様なので、水と地域を長年守っていたにしているのだから、このままにしておきたい」と話す。

以後、毎年まつりでは神事を行い、参加者らが手を合わせてきたが、今年は新型コロナウイルスの影響で祭りが中止となった。

ウイルスの感染拡大防止のためにまつりを中止した。「昨年からは、池へ水を引いている滝沢川の善さんが新しい鳥居を造り、今月初旬に同グループの役員や地域住民が力を合わせて祠前に設置した。

川崎さんは「鳥居は神様のものだから、足りなくは、祭りなどが行なこともできず、気を使いなから造った」と話す。佐野代表は「新しい鳥居もでき、水車も川崎さんに直してもらった。また、来年は感染対策を考えながらまつりを実施して、新しい鳥居を皆に見てもらいたい」と話している。



鳥居建築に関わった地域住民